

# 式 辞

ただ今、卒業証書を授与しました六十六名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日、皆さんの元気な顔を見ながら、一人ひとりに卒業証書を手渡しできたことは、大きな喜びであり、万感の思いがあります。

本日の卒業式は、いつもの卒業式とは違う形になってしまいました。保護者の方、在校生、ご来賓の方には参加していただけず、呼びかけも歌もない卒業式です。しかし、この卒業式が、皆さんにとって小学校生活の最後を飾る晴れの舞台であることに変わりはありません。

忘れもしません。二月二十八日、皆さんにとって旭小学校で過ごす最後の日が突然訪れました。先生たちにとってもあまにも突然の出来事でした。この

日に予定されていた卒業生を送る会は、中止になりました。一年生から五年生が、六年生に感謝の気持ちを伝えるために、毎日一生懸命練習していたことを知っていただけに、中止を決定するのは、断腸の思いでした。

この日の最後の授業で、卒業式で行う予定だった呼びかけを、紙を見ながらも精一杯発表し、涙ながらに大きな声で卒業式の歌を歌う皆さんの姿が、今でも目に焼き付いています。そして、その姿を見た時、今年の卒業式は、六年生にとって、一生忘れることができない、今までにない最高の卒業式にしなければと心に誓いました。

この一年間、皆さんの輝く姿を、様々な場面で目にしました。

お世話係として、慣れない学校生活に不安だらけな一年生の手をとり、優しく面倒を見てくれる姿。

児童会役員として、夢の木プロジェクトや雨の日プロジェクトなどの新しい試みに挑戦する姿。

委員会活動で、けがをした下級生を優しく介抱したり、廊下を走る下級生に優しく注意したりする姿。修学旅行で、ずっと雨が降っていても、暗い雰囲気は全くなく、見学する物に目を輝かせながらメモをとる姿。

どの姿も、旭小学校の六年生として誇らしく思えることばかりでした。

修学旅行の帰りのバスから目にした美しい虹は、旭小学校の六年生のすばらしい姿勢に対するご褒美だったのかもしれない。

六年前、皆さんはわくわくドキドキしながら、小学校に入学してきました。あれから六年、たくさんのことを学び、経験してきたことと思います。そして、その学んだこと、経験したことは、皆さんが成長していくための大切な肥料になります。

人はそれぞれ違う「個性」という種を持っています。そして、その個性を伸ばすために努力を重ね、一人ひとりが持っている個性を大きく成長させてく

ださい。そして、「夢」という世界に一つだけの花を咲かせてください。

以前、学校集会で話した「千里の道も一歩から」という言葉をおぼえていますか。

皆さんは、これからいろいろなことに挑戦し、数多くの壁を乗り越えていかなくてもなりません。

きっと上手くいかずに悩んだり、立ち止まったりすることもあるでしょう。しかし、そんな時こそ、どんなに失敗してもあきらめず、地道に努力を続けることが大切です。ほんの小さな一歩でも、毎日少しずつ努力を続ければ、きっと千里という遠い彼方にある目標でも達成できるはずですよ。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時がきました。旭小中学校は、今までも、そしてこれからもずっと、皆さんのことを応援し続けます。そして、悲しいことやつらいことがあって、くじけてしまいたいそうになったら、旭小中学校の校歌を大きな声で歌ってください。

い。きつと元気になって、また前進できるはずです。  
「ゆめは大きく前進だ」

なお、卒業記念品として、尾張旭市より「英和辞典」を、旭小学校PTAより「卒業証書ホルダー」をいただきました。

終わりになりますが、本日ご臨席を賜うことはできませんでしたが、子どもたちの健やかな成長に力添えをいただきました、保護者の皆様方、地域の皆様方に厚くお礼を申し上げ、式辞といたします。

令和二年三月十九日

尾張旭市立旭小学校長

浅野 謙一